

## 県指定文化財<建造物>

ながやまばし  
永山橋

指定日 平成6年3月16日

所在地 菊池市原 永山



この橋は、熊本―菊池―小国を結ぶ小国往還で、菊池川に架けられた最短ルートの交通の要所で、交易上重要な橋であった。

下河原村庄屋、忠兵衛の『永代記録』によれば、文政6年(1823)冬、備前国阿津村の石工、勘五郎(のち小坂姓)の手によって竣工したが、文政12年5月の洪水で流失している。

流失した旧橋の代わりとして、130mほど上流に架け替えられたのが現永山橋(石造単一アーチ橋)で、明治11年(1878)に竣工した。石工棟梁は種山村(現八代市東陽町)石工、橋本勘五郎である。

使用の石材は近くの山、<sup>かみくずれさこ</sup>上崩迫より切り出された。橋の特徴である丸型の欄干は名工勘五郎の手法が顕著である。

長さ61m、幅4.6m、高さ17mで、輪石は45枚あり、架橋当時そのままの形が残っている。学術的にも非常に価値が高いといわれる。